

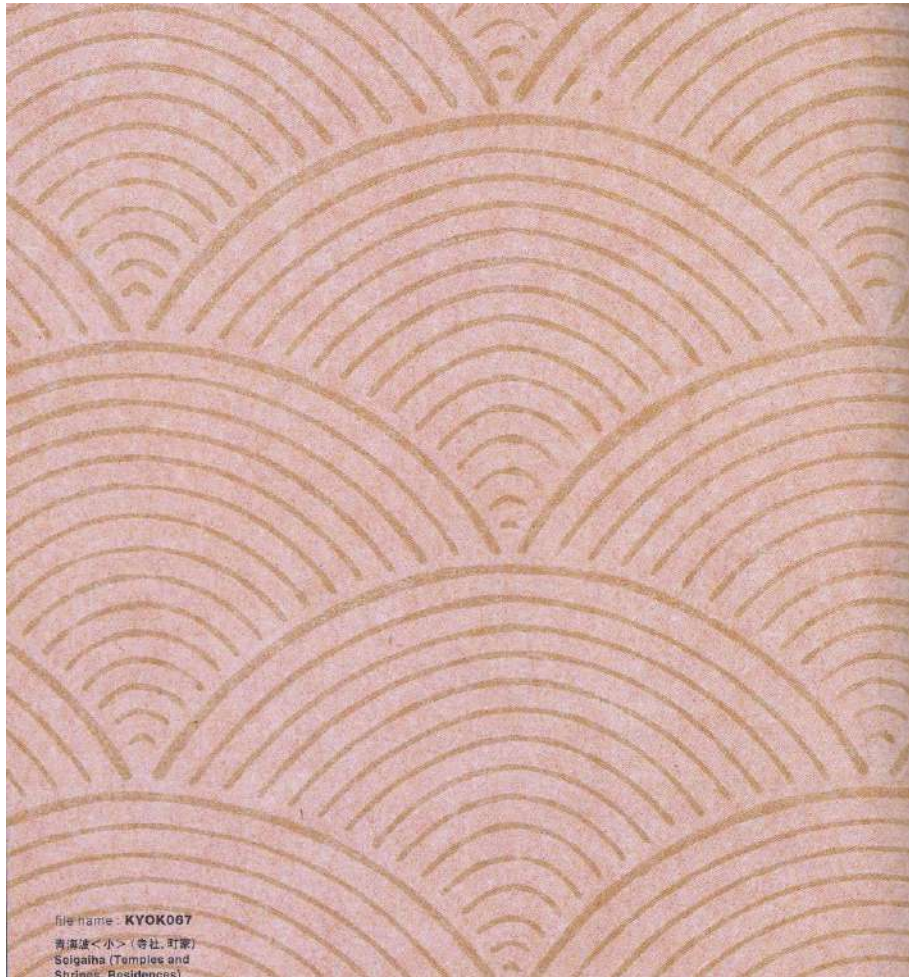


学 校 通 信

<http://www.wanogakkou.com>

vol. 26

発行：特定非営利活動法人和の学校 〒602-0006 京都市上京区小川通寺之内上ル 2 丁目禅昌院町 648-1
TEL：075-202-2001 FAX：075-431-7570 E-mail：info@wanogakkou.com



file name: KYOK067
青海波く小 (寺社・町家)
Seigaiha (Temples and
Shrines, Residences)

唐長文様
「青海波」
(寺社・町家)

波とは水面の高低運動です。様々に変化する波の形を文様化したものは数多くあり、そのうち『青海波文』は、波を扇のように重ねて文様化した割付文です。海の恵みと穏やかな無限の広がりから、平和な暮らしが続くようお願いが込められた吉祥文様のひとつです。（監修：唐長 12 代目 千田優希氏）

青葉の候
皆様、いかがお過ごしでしょうか。
令和四年度 第二十期（令和四年四月一日
〜令和五年三月三十一日）も多くの皆様にご
尽力を賜りまして活動することが
出来ました。
ご高覧頂きますと幸いです。
今後ともご支援、ご協力賜りますよう
何卒宜しくお願い申し上げます。

◆ 目 次

理事長 伊住禮次朗 ご挨拶	2
新たな取り組み	3
（第二十期活動報告）	
桂坂野鳥遊園 特別体験講座	4
あそび塾	5
味の手帖 「これをあげたい！」	6
イベント活動補助制度	
「暦だより」・会費規定	7



和の学校 HP の
QR コード

理事長挨拶

「100年後を考えて、今、」 理事長・伊住禮次朗

100年後のことを考えて、今、始めなければならない

伊住政和のそんな想いから、「和の学校」はスタートいたしました。この設立時の意志に想いを馳せてみたいと思います。

100年後、日本の伝統文化や伝統産業はどうなっているのでしょうか。伝統とは現代生活者の土壌をなすものであり、その思想や哲学は日々の活力を与えてくれます。そして生活と共にあるものです。しかしながら、生活様式の変容に伴い、日常生活との間にある隔たりは大きくなるばかりです。

それでもなお、伝えたいものがある。だからこそ「和の学校」が設立されたのだと考えます。そして、このような「伝えたい」という意志こそが新たな創意に繋がりを、次代の伝統をつくり上げるのだと確信しています。

100年後にも残したいものは何か。そのために今、始めなければならないことは何か

和服、和食、和室。「和」とは広くやわらかな概念であり、日本の暮らしそのものです。暮らしの豊かさを想い、100年後のことを考えて、今、始めなければならないことは何か。本年度はこのような課題と向き合い、実行に移すべく取り組んでまいる所存です。



令和5年5月7日イベント参加風景 於桂坂野鳥遊園
(右手前に伊住理事長)

本年度より開始する新たな取り組み

情報収集発信事業 ウェブサイトのリニューアル

「和の学校」は平成12年（2000年）に伝統文化・産業の魅力をインターネット上で発信するためにウェブサイトを整備するなど、様々な情報発信に努めておりました。

毎日、カレンダー形式で季節の和菓子の写真をアップするなど、和の文化に親しんで頂くための取り組みも精力的に行われていました。

当時としては清新な取り組みも多かったように思われますが、現在のウェブサイトは利用者目線で非常に使いづらい状況に陥っております。

よって、NPO法人として設立20周年を迎える令和6年（2024年）春頃の公開を目指してウェブサイトのリニューアルを進めます。

クリエイティブ・リユースプロジェクト 「つくものらぼ」の計画実行

会員参加型のプロジェクトとして企画・提案するものです。

本プロジェクトでは、伝統産業を中心として、さまざまな製品の各種制作段階で発生する端材や余材に注目し、特色ある素材と触れ合うことで豊かな創造力を育む場の構築を目指しています。

伝統的な素材から現代的な工業製品に至るまで、趣旨の賛同者様より提供を受けた端材や余材を集め、それらを専門家とともに子どもたちや社会に向けて、創造的な教育活動の素材として再活用するクリエイティブリユースの拠点や仕組みをつくるプロジェクトです。



この構想は、幼児教育の取り組みにおいて世界的に注目を集めているレッジョ・エミリア市（イタリア）を参考にしています。

同市では、地元の企業から提供される端材等の不要なものに新たな価値を見出す「レミダ」と呼ばれるクリエイティブリユースサイクルセンターが運営されています。それらを展示保管する役割を果たす倉庫兼アトリエでもあり、教師や保育士、アトリエリストと呼ばれる専門家はそれらの素材を再活用してさまざまな教育プログラムを提案します。

本プロジェクトでは、レッジョ・エミリア市でアトリエリストとして活動していた津田純佳氏（みりおらーれ代表）と協働し、レミダの思想・哲学に通じる取り組みとして推進してまいります。

日本には、長い年月を経たモノに魂が宿って「九十九（付喪）神」になるという伝承があります。

創造的な教育活動のために端材や余材を再利用する本企画のコンセプトに重なるものがあると考え、プロジェクトの拠点を「つくものらぼ」と名づけて整備を進めたいと考えています。

次代を担う子どもたちが創造的視野を育むことができる社会的な取り組みとして展開することを目指します。



(素材イメージ)

桂坂野鳥遊園 特別体験講座2022

三登山と自然観察会 五月五日(祝)



ゴールデンウィークの最終日、野鳥遊園は新緑に満ち溢れています。自然観察会のボランティアの方々が親子を引率し、植物や昆虫などを観察しました。時折り図鑑を出して名前や種類を確認して、最後に見つけたものを総括するなどして色々なことを学びました。植物の芽吹きにより、様々な昆虫が若葉に産卵します。昆虫が若葉を食べていると小鳥などに捕食されます。様々な食物連鎖により自然界は躍動していきまします。植物に日が当たり、若葉を芽吹く事が色々な命を支えるのです。

父の日の布ぞうり作り 六月二日(日)



毎年恒例だった布ぞうり作りですが、室内で並んで作るのではなく、今年には人数を制限して実施しました。作り方はワラ草履と同じなのですが、室内で履けるように布草履にします。お父さんの足のサイズは意外に大きく作らないと、最後に縦糸を引き締めると縮んでしまいまします。要領がわかれば、同じことを繰り返すだけなのですが、細かく目を編みただけならば細い材料で、大柄を作るには何本かを束ねて編むと出来るんです。鼻緒は紐に布の筒を作られて被せます。

竹の食器作り 七月二日(日)



以前は流しそうめんを食べる事が大人気でしたが、コロナ禍では「食べることも制限されてしまいました。なので今回は食器作りだけのメニューです。しかし、世の中からイベントがごとごとく姿を消したせいか、申し込みが沢山あり、盛況となりました。竹の食器は乾燥させることや、定期的に布で拭くなどしないとカビてしまいます。竹の扱い方を知ることにも体験の一つとしていきます。また、竹は繊維が固く、細かな刃のノコギリでないと上手く切れません。繊維の筋を切るのはノコギリ、繊維方向ならナタで割るようにして加工します。

竹の水鉄砲を作ろう 九月四日(日)



竹の水鉄砲作りは毎年9月の恒例活動です。夏休みが終わり、2学期が始まりましたところですが、まだまだ暑い日が続きます。海や川へ行くのも終わりの頃で、最近では市民プールも無くなっており、水遊びの機会が減りました。水鉄砲は、竹の筒と中の押棒に巻くスポンジの密着具合、水が飛び出す穴の大きさのバランスで、飛ぶ飛ばないが決まります。結構、考える事が多く、理科の実験みたいな要素が面白さを増幅してくれます。そして、初めて会った子ども同士で水の掛け合いが始まり、冷たくて気持ちいい体験となりました。

桂坂野鳥遊園 特別体験講座2022

お正月に入って急に感染者が増えて、どうするか困ったんですが、行動制限も発令されなかったので、予定通り実施しました。人気の講座なので早く再開したかったのですが、冬場は感染が増えるので難しいです。人数を少なくしているのですが、あまり密にならないよう、換気すると寒いですがしっかりと換気して行いました。大豆を炊く作業は2日前から水に浸け、当日は朝早くから炊き始めます。糀の匂いや大豆の炊ける匂いがこのイベントの雰囲気です。美味しい味噌になって下さい。



味噌作り 一月二三日(日)



このイベントも久しぶりの再会です。準備作業が大変で、実は前日に白、緑、赤を作ったのし板に広げ、一晚冷ますので、準備と言うより作っている感じです。この日はスタッフが集まらず、家族で準備しました。当日は団子粉を練るところから始めますが、大きな羽釜にたくさんお湯を沸かすため、朝一番でカマドに火をつけました。餅つきと似ていますが、それ以上に手間がかかります。三色事前に準備したものは菱形に切って頂き、お家で焼いて食べてもらいました。イベントでない家庭だけでは子どもにしてやれないですね。

雑団子作り 二月二六日(日)

名称	内容	実施日	参加者 (体験者)	参加費
木工・木端細工	木材や間伐材での工作	4月17日(日)	9名(5名)	700円
自然観察ハイキング	新緑や昆虫などの観察	5月5日(祝)	19名(10名)	700円
父の日の布草履作り	端切れ布細工	6月12日(日)	20名(11名)	700円
竹の食器づくり	間伐竹を使った工作	7月24日(日)	16名(9名)	700円
ソーラーモデルハウス	太陽光発電オルゴール	8月14日(日)	22名(12名)	1,000円
竹の水鉄砲を作ろう	水鉄砲の竹細工	9月4日(日)	30名(17名)	700円
凧作り	和凧を作る体験	10月23日(日)	10名(5名)	700円
薪割り薪ストーブ体験	薪割りとその利用体験	11月27日(日)	21名(11名)	700円
注連縄飾り作り	お正月文化の体験	12月18日(日)	25名(14名)	700円
味噌作り	親子で味噌作り	1月22日(日)	16名(9名)	1,000円
雑団子作り	蒸籠を使う団子づくり	2月26日(日)	18名(10名)	1,000円
しいたけ栽培	しいたけの原木作り	3月19日(日)	27名(16名)	700円

あそび塾2022

川遊び 八月七日(日)



昨年からは復活した川あそびです。今年はコロナの感染が拡大し、募集も少なめに受け付けました。人数が少ない活動となりましたが、屋外活動なので、扇風機を回すなどして対策しました。お弁当持参していただき、黙食としましたが、参加できて良かったの声が多かったです。山の清流はコロナ以前と何ら変わりなく、川の魚や美しい水、ひんやり冷たくて気持ちいい活動でした。エネルギーが高騰、地球温暖化。しかし清流はそのまま涼しかったです。私たちの暮らし方を考えさせられる一日でした。

楽茶碗作り② 一月二〇日(日)



七輪に炭火をおこし、ドライヤーで風を吹き込みながら焼成します。釉薬をつけた後、徐々に温度をかけるため、囲炉裏で徐々に加温します。そして、七輪に乗せて焼成開始。余談ですが、炭は園内の樹木を使って炭焼きしたものを利用しています。また、酸化還元焼成にもみ殻を使いますが、こちらも注連縄作りで使うもち米のもみ殻です。色々なイベントは色々な活動によって支えられています。



月刊誌『味の手帖』「これをあげたい！」ご報告

平成20年4月より月刊誌『味の手帖』に、「これをあげたい！」をテーマに和の学校理事、会員、講師の方々より執筆いただいております。令和4年度の刊行内容を紹介します。

掲載月	執筆者	お勧めの手土産	店名
R4年4月	内原智史氏 (ライティングデザイナー、和の学校理事)	栗餅	澤屋 (京都)
R4年5月	石川史嗣氏 (いしかわや主人、和の学校会員)	サンクフォンテーヌ	渡六菓子 (新潟)
R4年6月	中村清斉氏 (扇子司中村松月堂十七代、和の学校理事)	あんジャム	甘春堂 (京都)
R4年7月	三木崇司氏 (三木竹材店代表、和の学校講師)	露の香	笹屋伊織 (京都)
R4年8月	野村正樹氏 (建築家、ローバー都市建築事務所代表、和の学校会員)	濃茶むらちゃスイーツ	麩屋柳緑 (京都)
R4年9月	小川後楽氏 (小川流煎茶家元七世、和の学校理事)	賀茂葵	宝泉堂 (京都)
R4年10月	千田優希氏 (唐長十二代、和の学校講師)	おつけもの	なり田 (京都)
R4年11月	安田ひろみ氏 (アールスペース感主宰、和の学校会員)	ふのやき	ミリエーム (京都)
R4年12月	川那辺乃生氏 (黒田杏子主宰「藍生」会、和の学校会員)	菊寿糖	鍵善良房 (京都)
R5年1月	村山忠彦氏 (村山造酢代表、和の学校会員)	名物うなぎ姿ずし CO・chidori	美濃吉竹茂楼 村山造酢 (京都)
R5年2月	児玉修氏 (映像作家、和の学校理事)	季節の生菓子	鼓月 (京都)
R5年3月	杉本節子氏 (奈良屋記念杉本家保存会常務理事兼事務局長、料理研究家、和の学校会員)	松風	亀屋陸奥 (京都)

上質な食文化を追求する、食通のための月刊誌『味の手帖』HP <https://ajinotecho.co.jp>

「イベント活動補助制度」について

イベント活動補助制度 応募企画のご紹介

・目的
日本の文化や和のこころを次世代に伝えるための講座や体験イベントの企画申請に対して補助を行い、各地で和の学校活動を広げていただくことを目指します。

・補助金
一イベントにつき一万円

(年度内上限5回まで)

※イベントは企画運営者の主催であり一切の責任は企画運営者に帰属します。ボランティア保険や行事保険に加入し、個人情報保護体制などに万全に備えることが必要です。

・実施報告書

実施した様子や参加状況について報告提出が必要です。又、実施したイベントは和の学校の活動報告として広報誌やホームページに掲載し、会員の皆様に報告します。

「応募を
お待ちしております。
お問い合わせ、お申込みは
事務局までお願い致します。」

イベント活動補助制度応募企画 ①

「自分だけの埴輪を作ろう！」

募集参加対象者…

小学生低学年から高学年

募集参加人数…10～15名

企画団体者…

くらぶ・つちのこ・京都

灘さとみさん

《ねらい》

「手の力が弱い子」「じっとすることが難しい子」「何をしてもいのかわからない子」など学校の授業に入りにくいお子さんを対象に(障がいのある子どもさん)に陶芸家が考えた作りやすい方法で指導いたします。「出来た!!」という喜びを大切にします。「こんなに面白いものが出来たよ!」という気持ちは、自信につながります。『はにわ』づくりを通して、出来る力を伸ばします。

《作る物》

新聞紙を丸めて芯をしたものに、粘土を張り付けて形をつくりまします。ハニワの形をつくり、好きなものをつけて完成。今回は焼成を行わないので、焼かずに固めるハニワ粘土を使用します。



仕上がりは明るいオレンジ色に

《企画者：灘さとみさんより》

10年以上、滋賀県内の主に小学校で陶芸の授業を行う仕事をしております。(陶芸の森美術館、学校、滋賀次世代文化芸術センターとの連携授業。年間一万人以上の子どもたちに、陶芸の森に所属する陶芸家が実際に学校に赴き、ボランティアスタッフと共に授業を行っています)

最近では、支援クラス、支援学校、障がいを持つ子供たちが作る作品、一生懸命な姿に、私に出来ることは何かと常に自分に問いかけています。いずれは教える側に、障がいを持つ方が立つことが出来ないかと思いい、活動をしております。

「暦日より」配信について

春分号の配信をもちまして終了させて頂きました。二十四節気ごと和の学校の活動のお知らせとともに配信をいたしておりましたが、システムの老朽化などにより、今後のサービスの継続が困難と判断を致しました。長きにわたりご利用いただきまして謹んで御礼を申し上げます。

会費規定について

会費納入につきましては、入会月もしくは継続月から一年間を会員期限と致しております。また、自動更新での口座振替を頂いている方は、八月末または二月末に納金をいただいております。

今後は、二月末までに翌年の活動費を納金頂くことに変更致しました。自動更新での会員の皆様は、二月末へ統一とさせて頂いたいただきます。ご理解とご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。あわせて、会員証の発行は終了させて頂いたいただきます。

協力会員店へご登録を頂き、会員の皆様の特典サービスをご提供頂いておりましたが、こちらも終了となりました。